連盟全国支援・地域協働プロジェクト
バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 23号
月刊
発行責任者：山田雄次
発行所：〒805–0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2017年9月28日

連載　視座を広げるために(2)
～教会再生の糸口を求めて～
教会おじゃします　苅田教会・門司教会
地域協働の担い手を育てるために
写真：「連合壮年会ワーク」
（9/9　芦屋教会）

東九州地方連合のヴィジョン-「視点を変え」て「使命を果たす」

臼杵キリスト教会牧師　**松永　正俊(臼杵)**

（Ⅰ)北、南、西があるのに、なぜ東がないのか。大分の教会が3つしかないからです。「1587年(天正15年)、豊後のキリシタンは5万人を超えていた。日本国内の信者が約30万人であった」(辻野功著「大分学Ⅱ」)。そんな時代もあったのですから、ヴィジョンをかかげ、祈ることは、決して幻想ではないと思っています。ご加祷下さい。

（Ⅱ)「全国かくれキリシタン研究会」の全国大会が、来年臼杵で開かれるので、協力要請がありました。教会独自で「キリシタン遺跡巡り」のパンフレットや冊子を作り、伝道に用いていたのが目にとまったようです。キリシタン講演会等を継続して行い、10名程の未信者が参加されています。将来、教会で開催できるよう計画していこうと思っています。「福音のために私はどんな事でもする」(Ⅰｺﾘﾝﾄ9章23節)。

（Ⅲ)「牧師は信徒の忍耐という奇跡によって、立つことがゆるされているのですよ」(ある信徒)との諫言を受け、心に刻み牧会しています。又、宣教の要点を３つあげ―①視点を変える(肉の命から霊の命へ)、②信仰に生きる(肉の人から霊の人へ)、③使命を果たす(信徒から弟子へ)―その全てにおいて、「労苦がむだになることはない」(Ⅰｺﾘﾝﾄ15章58節)との励ましを受けています。私達の模範はイエス・キリストですが、キリシタンの時代、豊後の良き模範者が、アルメイダとペトロ岐部です。アルメイダは、商人、医師、宣教師として活躍し、大分をボランティア発祥の地とした人であり、ヴィヴァローダ(生きた車輪)と言われるほどに、九州を歩き回って開拓した尊敬すべき人物です。ペトロ岐部は、国東半島の出身で、日本人で初めてエルサレムに巡礼した人であり、ローマで司祭となって日本に帰り、穴吊りの刑で殉教した驚くべき人物です。天国をめざした二人の生きざまに、宗派を超えた感動を覚えます。「人が生れる時、周りは喜び踊り、本人は泣き叫ぶ。人が死ぬ時、周りは泣き叫び、本人は喜び踊る」(作者不詳)の如く、喜んで殉教していった信仰を掘り起こし、学びとりたいと願っています。お祈り下さい。

地域協働の担い手を育てるために

7月31日(月)から1泊2日、下関市のみさか自然の森において、連合小羊会キャンプが行われました。小羊会の子ども達29名、グループリーダーの青年5名、引率者やスタッフを合わせて、約50名がかかわりました。川遊びや野外炊事などのプログラムを組みましたので、諸教会で小羊会を担当している引率者の方がたに、グループリーダーの補佐をお願いしました。

これだけのスタッフが揃う連合小羊会キャンプはなかなか無いと思います。小羊会の担当者どうしが共に育ち合うための機会を持つことができないか、可能性を探っていきたいと考えています。

編集後記

8月24日(木)から2泊3日で開催された全国壮年大会に、菊岡連合壮年会長と参加してきました。2日目の夜の集会ではアジアミッションコーディネーターの働きに仕えている伊藤世里江牧師が証しをしてくださいました。近隣国に派遣されている宣教師ご一家の近況も伺いました。壮年の全国大会でも世界伝道が覚えられていることに、胸が熱くなる思いがしました。

次回予告

巻頭言　菊岡義修　連合壮年会長(東八幡)
教会おじゃします報告　シオン山教会

10月の予定

10月 1日(日)連合まつりマルシェ出店申込〆切
8日(日)別府国際教会
酒井朋宏牧師就任按手式
9日(月)第2回連合まつり(シオン山)
12日(木)女性連合全国大会(西南学院教会)
13日まで
19日(木)宣教支援センター常任委員会
(東八幡)
21日(土)沖縄について学ぶ会(豊前)14時
講師：東風平巌牧師(沖縄連盟小禄教会)
26日(木)おじゃします東八幡教会19時

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。
HP：http://bapkitaq.jimdo.com
パスワード：kitaq2015

郵便振替 01590-7-3255　加入者名　バプテスト北九州地方連合
通信欄に「宣教支援センター支援献金」と明記してください。

連載　視座を広げるために(2)

前号では、連合諸教会を取り巻く現状について、北九州市の統計データをもとに考えました。教会再生の糸口はどこにあるのでしょうか。私は、教会に集うお一人お一人が当事者意識をもって、ご自身の賜物を主にささげるということに尽きると考えています。

1)シオン山教会　敬老礼拝の試み

シオン山教会では70歳以上の方を敬老の対象者と定めています。今年度から新たな試みとして、敬老礼拝の奉仕を70歳以上の皆さんを中心に担うことにしたそうです。

9月17日(日)の主日礼拝は、司式：船津丸泰さん、教会学校月間(成人科)報告：大里克夫さん、聖歌隊：シニア聖歌隊、奉献の祈り：藤田小四郎さんが奉仕を務めました。

司式の船津丸さんは、招詞から後奏に至るまで、凛とした姿勢で導いてくださいました。大里さんは成人科クラスの様子とこれからの希望について熱く語ってくださいました。シニア聖歌隊の特別賛美「主のためにわれは生く」は、総勢14名のシニアメンバーによる、とても力強い混声合唱を聴くことができました。礼拝の直前まで熱心に練習した成果が発揮されていました。

老いの現実に直面することは生易しいことではないと思います。けれども気持ちは青年時代と変わりなく仕えることで、神様によって生かされていきます。まだまだできることがありそうです。

2)連合壮年会　芦屋教会ワーク作業会

連合壮年会では、9月9日(土)芦屋教会において、ペンキ塗りのワークを行いました。私たちは昨年度の全国壮年大会in北九州において、壮年・女性・青年の垣根を越えて、本気で教会に仕えていくことを確認しました。そこで連合壮年会では、今年度から年1～2回程度、壮年が少ない教会にお伺いして、営繕等の作業をさせていただくことにしました。

芦屋教会には壮年はもとより、連合青年会の兄弟姉妹も駆けつけて、ペンキ塗りのワークに加わりました。色褪せていた外壁が、高圧洗浄・下地塗り・本塗りを丹念に行うことで、見違えるほどきれいになりました。

何よりもうれしかったことは、参加された皆さんが楽しそうに語らいながら作業していたことです。各個教会の壁、性差や年齢の壁を越えて、主の御用のために時間と労力をささげる。献身している姿がそこにはありました。連合壮年会が求めてきた答えが、ようやく形になったように思います。作業終了後は、芦屋教会の皆さんと共にバーベキューをして、夏のゆうべを楽しみました。誰かを助けることで元気になれる。そのことを実感した一日でした。(齊藤弘司)

伝道委員会と宣教支援センターの共同企画

教会おじゃします

第19回　苅田教会を訪問しました

7月27日(木)は苅田教会におじゃましました。厳しい日差しが降り注ぐ中、12教会から42名の方がたが集まってくださいました。

佐藤清一牧師は奨励の中で、私たちの働きは誰かと分かち合うことによって正当な働きになるということを、前任地でのかけがえのない出会いを振り返りながら語ってくださいました。

苅田教会は富野教会から生み出された教会です。昨年、創立60年の節目の年を迎えました。

既に主の御許に召された兄弟姉妹を始め、たくさんの方々の祈りとささげ物によって、現会堂が建てられたことを知りました。鍋倉名誉牧師ご夫妻を始め、9名の教会員のご紹介がありました。

終了後には書籍と衣類のミニバザーもあって、去り難そうにしておられる皆さんのお姿がとても印象的でした。当日参加できなかった方がたを含む、苅田教会のお一人お一人に感謝します。

第20回　門司教会を訪問しました

8月17日(木)定例の祈祷会に合流させていただく形で、門司教会におじゃましました。さいわい幼稚園の預かり保育が行われている等の事情があり、連合伝道委員4名(伊藤、谷本、國分、石橋)、連合女性会長(福田)、宣教支援センター主事(齊藤)の計6名が、代表して訪問させていただきました。

桐原恩恵牧師は、箴言30章5節「神のことばは、すべて純粋。神は拠り頼む者の盾」(新改訳)から、奨励を語られました。障がいをお持ちの息子さんの介助の手が離れる、夕方の30分を用いて、み言葉を分かち合い祈り合う時間を持っているとのことでした。

地方連合が教会のニーズに合わせて柔軟な対応をしたことについて、門司教会の皆様から感謝の言葉をいただきました。桐原牧師を含む3名の教会員の方がたと共に祈り合う時間が持てたことは、まさに協力伝道の出来事であると思います。ありがとうございました。